

なんと未来ミーティング<若者世代コース>開催記録

開催日時■令和3年12月9日(水)午後7時～9時 15分

開催場所■南砺市役所401会議室

参加人員■<若者世代>16名(市内・県内・県外の20歳～29歳)

<メインファシリテーター・司会>なんと未来支援センター

<市側>田中市長、川森総合政策部長、石崎総合政策次長、大橋交流観光まちづくり課長、
亀田エコビレッジ推進課長、上野情報政策課長、情報政策課5名

<グループファシリテーター>なんと未来支援センター 能登氏

<オンライン運営>なんと未来支援センター2名(能登氏・長谷氏)

<書記>テーマ担当課 各1名(交流観光まちづくり課・政策推進課・エコビレッジ推進課)

<傍聴>YouTube ライブ配信+編集映像配信(12/14(火)～12/27(月)公開)

スケジュール■

19:00 開会

19:05 市長あいさつ

南砺市の取り組みについて(プレゼンテーション) 市長

19:20 アイスブレイク

19:30 グループワーク1【テーマから課題発見】

19:50 ワーク1 グループ発表・市長コメント

20:00 グループワーク2【課題から未来を考える】

20:30 ワーク2 グループ発表・市長コメント

20:55 市長総評

21:15 閉会・解散

市長プレゼンテーション■

2004年4町4村で合併し、今年で18年目を迎え、文化や地域の良さをそれぞれ皆が共有できることができ合併して良かったと語り、南砺は遺産のまちで、白山ユネスコエコパークをはじめ、合掌集落のあるユネスコ世界遺産の五箇山、無形文化遺産の城端曳山祭りや日本遺産の井波彫刻等、これだけ世界遺産がいくつもあるところは少ないとわがまちを紹介した。

また2030年までに実現したい第2次南砺市総合計画を挙げて、様々な課題はあるけれども前向きに、「こんなまちをつくっていききたい」と明確にされた。①子どもが育ちたいまちを作りたい。②若い女性に選ばれるまちに変えていきたい。③男女の格差を解消する取り組みを継続。④南砺の将来を担う高校と一緒にまちづくりをし、高校生の青春を市民全員が応援する“南砺をつなげる”プロジェクトを実施する事を話した。

また移住・定住にしっかり力を入れているので、更にPRしながら移住された方々や、元々南砺で育った人達が戻ってこない現状をこれからみんなと一緒に考えたい。それから日本一の成婚率誇る、南砺市の婚活事業、南砺市応援市民が880名の応援団として全国でPRいただいている等の市の施策を報告し、今回のテーマについて様々なご意見を聴かせて欲しいとお願いされた。

発表内容と市長見解■

Aグループ:『ニューツーリズム』

発表内容: ●uberタクシー導入 ●SNSの活用や市内の情報発信しているインフルエンサーの支援

主に公共交通と南砺市の情報発信についての課題を話し合いました。公共交通では南砺市はやっぱり広いので、タクシーとか公共交通、電車とかはあまり発達しないこともあって、タクシーとかはやっぱり必要になってくるんじゃないかっていう話で、uberタクシーの活用っていう話が出たんですけど、地元のタクシー会社さんとの兼ね合いもあるので、uberタクシー活用は難しいのかなあという話が出た。

それプラス観光で南砺市は金沢の隣なので、金沢市との連携とかあるんですけど、南砺市は金沢行くための追加点等なることが多くて、滞在場所が少ないのではないかという課題が出てきました。

次に情報発信の SNS の活用なんですけど、やっぱり情報発信で言ったら最近はその SNS の活用が大きいかなという話をしていた。結局どうやって発信するか、どうやってそこにいる人達に南砺市のことを知ってもらうかという話をしている。例えば移住者の方たちは、やっぱり横の繋がりがあってと思うので、移住者で言えば移住者のコミュニティ内で発信してもらって、発信の支援をするなどして、市がそれも出していればいいのではないかなという話をしました。

他にも南砺市を情報発信する際において、インフルエンサーの活用やインフルエンサーにお願いをして紹介してもらおう案などの話なんですけど、他のインフルエンサー、例えば富山県で言ったら、はじめしゃちょーさんとかいると思うんですけど、そういう人たちに発信をしてもらっても何か案件という形になると思うので、やっぱりその視聴者側としては、案件ってなったら、ちょっと気持ちが悪入るというのかもしれないんですけど、あまり案件といたら真剣に見るといって、あんまり身に入らないっていうのは、という話もありまして、南砺市に今、発信してくれているインフルエンサーの支援を主として行えば良いのではないかっていう話をしていました。

田中市長

答弁・質疑内容

今回の情報発信、それと公共交通というところも含めて、悩みの種なんです。

実はですね私もこれで変人の 1 人ですので言いますが、今日発表しますがuberと一番最初に自治体で手を組んだのが実は私です、これやっぱりタクシー会社と競合非常に難しかったので、結果的には実証実験 1 回でやめてしまったんですけど、そういうことも含めて先進的な交通網の確保をしたいという思いは強いわけです。

最近、皆さんご存知かどうかわかりませんが、新しい企画なんですけど、「らんらんバス」っていう金沢までの無料送迎バスが走り始めています。金沢の事業がスポンサーとなって、南砺市の人を送り迎えといった新しい交通体系も出てます。そういったものとオンデマンド、例えば乗り合いタクシー、そういったものを絡めていかももちろん城端線の背骨はちゃんと守るといようなことも含めて公共交通考えていきたいと思えます。

最近、ちょっと新しいことを考えてまして例えば、井波の街は、大人も子供も観光客もゆっくり歩ける街にしようとかですね。そういうことを考えるのはなぜかっていうと、シニアカーの実証実験やってるんですね。自動運転のシニア間の実証実験やってたので、それにヒントを得てですね、お年寄りの人がゆっくり歩ける街にしようということ今考えてます。それで、2月・3月になったらいろんな団体があるんですけど、グリーンスローモビリティという言葉があるんですね。「グリーンスローモビリティ」、宇奈月温泉に行くと、七、八人だけの電気自動車がゆっくり走っていく。これを井波の街でやりたかった。井波の街を 20 キロで走っていると、普通の車は邪魔になるんですね。だ

から井波のあるエリアを、40 キロから 20 キロ制限の街にして、買い物までゆっくり行ける、もしくは寺の周りまで歩いていける人たちの後ろをスーツと 20 キロぐらいの車が近づいている。普通の我々の車もそこへ入ったら 20 キロ以上出したら警察捕まりますよ!!。こんな感じで、もしできないかなというようなことも考えたりして。そうするとですね、新しいモビリティをそこで提供できる可能性があるんですね。ゆっくり走る、例えばゴルフ場のカートのような車、そういうものがぐるぐるぐるぐる回るような事ももしかしたらできるかもしれないということで、ちょっと考えているところはあります。そういったものが今後やっていけばもしかしたらですね、公共交通、観光客も住民も利便性が高まるんじゃないかなというのがあります。

あと SNS の発信、インフルエンサーこれもおっしゃる通りで、はじめしゃちょーがいいのか、誰がいいのかわかりませんが南砺市の関係者で一番、今フォローが多いのは、吉本のラブの達郎くんとか、モデルの得あゆさんとか 25 万とか 30 万人ですので、すごく多いんですね。そういう方ですね、本当にたくさんのフォロワーがいらっしゃる点、いろんな意味で南砺のことを繋げていただいた。僕はずっと最近思ってるのは、ハッシュタグの使い方をみんなで統一したり、ハッシュタグの使い方をどうやってみんなで共有するかっていうことを、みんなの SNS でやったらどうなるかっていうのをちょっとやってみたいんです。

最近ですね、私の知り合いといえますか、利賀村に移住された、若いご夫婦から源流居酒屋という YouTube 出しています。これ 4 万か 5 万人のフォロワーがいるんですね。とにかく、土日になるとずっと山中よりは移りながら、イワナ釣りながらそれを全部 YouTube で写して、そして山の中でキャンプはりながら、一杯飲むっていう源流居酒屋というそういうものがあります。その方は今、家のリフォームなんかも、古民家の改修なんかも全部移してやりますのでそういった方。あとなつみんさんっていう、大きな古民家を買われて三、四年経つ方もずっと南砺市の情報を流していらっしゃるの、そういった人たちのこともちょっと広げながら、あと内藤さんが一生懸命 PR をしているところもあります、なべちゃん農場のこともかなり広がってますので、そういったものをみんな集めながらいろいろ発信できれば、面白いなあと思っています。いろんな面白いことが南砺市もたくさんあるのでそれをどうやって、発信の仕方を変えていくことによって広がるかっていうのをちょっと考えていくと、南砺のグルメが見たい人は南砺グルメ見る、もっともっとハッシュタグの使い方を変えて、そのハッシュタグを市として紹介してあげるとかですね。あと、最近うちの職員とかみんな使うのは、私をタグ付するって結構広がりますので、何かいろんな意味で、そういうことをやりながらちょっと面白いことやりたいなど実は思っています。

追加発表: インフルエンサーを呼ぶっていうのはやっぱり違うなと思ってて、呼ばれてやりましたじゃなくて元からやってる人が、もうそのまま続けられるように支援してほしい。市役所とかそういうことをしてほしいという考え方でやってしまうから、やっぱりそういうものが本当の話そのものに興味がある人がコアなものだから、何かみんながみんないうやつじゃなくて、私が興味あるっていうので見てくるとやっぱり南砺市に行きたいっ！という気持ちもそれだけ強くなると思ってて。だからあまり変なことしない方がいいんじゃないのかなあと思うんですね。

後、らんらんバス無料なのはすごいなって思ったんですけど、やっぱり行き先が限られてて、やっぱ観光したいってなると、それぞれ行きたい場所も違うし、やっぱ一般人市民の方々に助けて安くできるようなコミュニティはやっぱ作ってあげた方がいいんじゃないかなと思います。ここにきて 1 ヶ月ぐらいで、電車をよく利用しているんですが、前の車両より乗車したり、ワンマン電車がよくわからない。そういうのって意外となくて、何かそういうのを教えてあげても結構面白いなと思います。

市長回答: 城端線も最近流行のドラマに出てですね、割と好評だったり、アニメのロケ地になったとして広がった

りして城端線、結構面白いですよ。

ついこの間、全然知らない人なんですけど、あるミュージシャンの方が福野の街が好きだって、福野の街に来たことをブログに書いてくれたんですね。本当に福野の駅で降りて福野の街を歩いて、そして写真撮ってアップしてくれたのが、ものすごいフォロワーの多い方で、全然知らない人から紹介あったんですね。だからなんかこう、そういうミュージシャンの方が割と来てくれて、名古屋のコンサートで、”なんか僕、福野に行ってブログ書いたら市長がフォローしてコメントくれたよ”“というので盛り上がったとかです。なんかそういう人たちが、もう全国に発信してくれてる人がいっしょで、そういう人を何か見つけながらまた 一緒になって盛り上げていくのも手かなと今感じました。こちらから何か誰かを頼んできてやるっていうことで本当に好きな人がつぶやいたり、好きな人を発信してるのを、うまくサポートしたりフォローしたりそんなことやるのも面白いなというふうに感じました。

B グループ:『若者に選ばれるまち』

発表内容:●ターゲットに使い分けて発信できるプラットフォーム ●副業における情報発信

情報提供、コミュニケーションプロモーションの情報発信の部分をテーマに、これを一つの課題として捉えて話し合いました。まず現状なんですけれども、今回皆さん田中市長さんもそうですし、いろんな、今回の参加者の方に聞きたいんですけど、実際僕自身、南砺市は今回田中市長が最初いろいろ話されたと思うんですけど、そういったことをやってた、そういう街なんだってことを全く知りませんでした。暮らしていて、また参加者の方もそういった方多いんじゃないかなって思ってます。現にやはりやっぱ南砺市の情報発信に少し問題があるのかなと思います。また、結構今、私達はグループ個人でもそれぞれ考えて南砺市を良くしていこうと一つ一つ活動している方いらっしゃるんですけど、それをやっぱ認知されてる方っていうのが非常に少ない。今回私はそれを非常に痛感しました。全然知りません。そこが問題だなと思います。なので、やはり情報発信に力を入れていくっていうのが、これは SDGs だったり他の課題においても重要になるのかなと思ってます。

どうやって情報発信していくかっていうと南砺市で、市もそうですし、市民の方々が情報発信できるようなサービス、プラットフォームというものを作成していただけないかなっていうのが今回のご提案です。実際にどんなふうやっていくかっていうと、マルチメディアに、つまり紙も使ってまた Web SNS を使って幅広い方々に送球できる、またその方法も絞ることができできる。例えばターゲットを 20 代の方にするだとか、40 代の方にするだとか、そういったふうに絞ることができるとなるとそんな仕組みを市の方から提供できないかっていう話がありました。実際にどんな情報を提供していくかっていうと、市で言えば、例えばいろんな政策やられてるっていうのを初めて知りました。高校の方がやっているっていうのを初めて知りました。そういった方を、実際に SNS で発信するっていうのもそうですけれども、他に先ほどの我々のチームで言う石井さんの絵を使って、各県他県から若者を呼んでそれを呼び込むために SNS を活動しているとおっしゃってました。なので、そこどうまくシナジーを生かして市からも同様の発信にリンクを貼り付けなどして発生していくということで、どんどん協力してほしいなという声が上がりました。

また、中川くんというチームメイトは今、副業に需要があるけれども、その副業が、どこにあるのかっていうものがあまり知られていない。またその事業その仕事の供給というものもあまり多くないっていうのもあったので、その供給を出してもらい、またそれを発生していただく。またその市から発信していただいている、市から供給していただいている仕事の副業っていうものを行っているんだよっていうことをその人自身やっている副業を行っている自身の方がインフルエンサーとなって発信するのもそうですし、市からも発生していただきたい。

そういった話がありました。コミュニケーションプロモーションという部分で、我々のチームから意見が出たのは以上となります。

田中市長

答弁・質疑内容:

私自身が担当して足りないものが情報発信の能力だというふうに思っていて、現在今日ですね皆さんにいろいろとお話をいただいたことをまさにその通りだと思っています。私、自負していることは政策的には南砺市のメンバーも含めて新たなものにも挑戦しますし、様々な形で作り上げる能力はあるんですが、発信する能力がないということはもう実感しています。ですから今おっしゃっていただいたことについては、まさにその通りだというふうに私も思っています。

そこで今プラットフォームの話がありました。これも本当にいくつか、例えば企業誘致だとか、それとか企業と働きたいという方々のマッチングのサイトだとか、観光のサイトだとか、いろんなサイトがちゃんと並んでる場合があるんですね。それと、ホームページなんかで、市の政策もどンドンどンドン PR をしてるんですが、皆さんに実を言うと、市のホームページから入ってくる人は誰もいないですね、何かを探さないと入ってこないということはプッシュ型でどうやって、その人に伝えていくかっていうことも含めて、やっぱりある程度もう一つ、全体的なネットワークの組み方を考えていくべきかと今感じました。

そのことが、プラットフォームになり、また皆さんが欲しいと思ってる情報が入り、そして自分たちがやってることが、また市内もしくは市外へ主として発信ができるような、そういう形になればいいなということでちょうど今、これは今日この課は情報政策課の担当ですので、私が言ってることで耳が痛いと思いますがこれからどういう形で情報発信をし、そして頑張ってる人を応援したり、また南砺とのことを知りたい人の方へ正確な情報が回るように、ちょっと知恵を出していきたいと思います。また皆さんにも、ちょうど今デジタルトランスフォーメーションという言葉がいいのかどうかわかりませんが、もう来年度、この ICT とか IOT とかっていうようなジャンルのものをもう一度整理をして、具体的にやっていくアクションプランを作ろうとか言って今いますので、そういったところに情報発信としてのツールとして情報発信としてのアプリケーションみたいなものもやっぱり考えていかなきゃならないのかなと今感じました。皆さんの意見本当に私にとっても同じように考えてましたので、ありがとうございます。この後またしっかりと取り組んでいきたいと思います。

副業について、南砺市は実は全国でモデル地区なんですよ。これはアプリケーションというか商工会と市とそしてそういったいろんな繋ぐアプリを使う作ってるところと連携して、そこに銀行さんも地銀さんも入って、実はやってるのが、全国的に実はモデルとしていろいろと発信されてるんですね。ですが、市内の方が副業をやりたいとか、市内の方が市内の企業というのは実は今まで僕の視点になかったってところがあるんですね。とにかく南砺市の企業に例えばマーケティングの得意な人とか、プログラムの得意な方を全国的に募集するようなイメージがなかったんで、やっぱりその辺はやっぱり、今中川さんでしたっけ、おっしゃることが、もしかしたらこれからも重要なかなというふうに思って聞いてました。

追加発表: SNS での活動での広め方って、田舎ほど、新面での宣伝が年配の方に信用されやすい。SNS は 20 代 30 代だけど 40 代 50 代 60 代は紙面って形があると思う。僕がもし 40 代 50 代 60 代に何か宣伝したいってなったときに、じゃあ僕が南砺市にお願いしますって言って、じゃあそれを広報に載せていただくっていう形を作って、南砺市の人でもっとこうしたいっていう人や、住民には知られてないけどいる人がいるんで、それ何とかバックアップして南砺市が、この人はこういう頑張ってるんだという肩書きを乗せてあげるっていう形があって欲しいなと思っています。

もう一つ僕が言いたいのは、そのなんとポイント、なんとハグっていうアプリ。そしてポイントっていうのが作られてるのに知られてないのが一番なんか悔しくて。もっと若い人たち今足りてないのは、お金、そして出会いやと思って、お金の部分で稼ぎたいけど、会社で副業をしたら駄目とか、確定申告が面倒くさいとかあって、それを南砺市が、お年寄りが除雪したいってなったときに誰かいないかな？じゃあ南砺市がその中間に入ってあげて若い人たちにその仕事をあげる。それをポイントとして交換して、そういうポイントごとにあげることでお金じゃなくて南砺市として使えるお金としてやってやることで、それが南砺市の人が施設に行くことでそれをインスタグラムで広げてもらえれば、その情報発信を若い人たちに向けて行えると思うんですね。それが増えれば 200 人、2000 人何万人となると思うので、副業っていうところで、その若い人たちに副業ができる市っていう意味で今どこもやっている県・市はないと思いますから、そこでメディアっていうのを取り上げてもらえるんじゃないかなと思います。

市長回答:ちょっと参考までに今富山県全体もしくは、南砺市で新しい新規通貨みたいなことの研究を始めました。これが最終的な方の構想としてはこれがマイナポイントになるっていうことも含めて考えていきたいなと思ってます。ということは、地域の何か貢献を下に、例えば除雪頼まれたときに除雪したときに、マイナポイントの中に点数が入って、それが地域通貨の中で、市内で使えるということにも繋げていけばどうかという構想を練ってる最中なんですね。ですからこれはマイナンバーカードも利用しながらやっていくという、そういうことを少しずつ今、検討してます。もう一つは、市が広報で紹介したり、市が中に入って紹介したりすることによって、その方と、そのニーズのあるところとの信頼関係をやはりきちっと確立するという意味では、やっぱりそういうデータというのは必要なかなというふうに感じました。ただ、闇雲にでもいろんな人がそうやってできるものではないので、その辺りの誰がどうやって選ぶかっていうのも少し課題はあるかなと思いました。

C グループ:『SDGs』

発表内容: ●学習支援や生理の貧困問題対策 ●縦の繋がり横の理解を深めるプラットフォーム

私達のグループでは大きく分けて二つの課題に絞りました。一つ目が貧困、二つ目がジェンダーと平等ベースで、一つ目の貧困では、まずはやはり学力格差の問題があるんじゃないかなということ、結構何回も言ってるかもしれないんですけど、今ある南砺市の学習支援に 2 回あると思うんですけど、それをできれば週 1 回やってもらうような体制を整えてくれないかなあという話が出ました。もう 1 個が生理の貧困の問題で、小中学校に生理用品をトイレに配布するっていうことをやってほしいなと思っています。やはり女性からしても、トイレに生理用品があるっていうのは心強いので、そういうのを南砺市が率先してやってほしいなと思います。今、話してくれたような生理の話などはやっぱりちょっと自分たち男子にはあまり認識がなかったところであったりするっていうこと自体がまずジェンダー平等に関する男女認識の違いとして問題じゃないかっていう話になった。また先ほど市長が言っておられた、女性の方がお酒を温めるとかの、そういった何か、ジェンダーに対するその役割の違いとかっていうのも、正直あんまり自分の世代ではそういったお酒を温めるのが女性の役目とか、お酒をつぐのが役目って皆の認識がなくて、逆に若い人があんまり認識しないところもあれば、逆にもっと認識すべき問題とかっていうのもいろいろあると思っていて、こういった貧困問題だったりジェンダーの問題であったりっていうことに対する対処法として、もっと縦の繋がりプラットフォームがあればいいなっていう意見がありました。例えば、自分たちの親世代とかもちろん若いお兄さんお姉さん世代に、育休を取ったお父さんお母さんの話を今の小学生中学生が聞けるようにするとかっていうことにするとやっぱり、

小さいうちからそういった意識が高まっていくのかなというふうなことがあげられました。また、貧困家庭の方で、縦のつながりがあると、学習指導はちょっと塾とかには行けないけども、近所の方が教え、お姉さん達に教えてもらったようなことができれば、実際に学習が受けられない子であっても、その地域の輪の中で、学習能力を高められないのかなというふうな意見が出ました。

もう一つが、横の理解を深めるためのプラットフォームということで、多分お父さんの中にもこういったすごい子育てに参加されるお父さんもいれば、あんまりちょっと家事が苦手、料理がわからないというお父さんもあると思うので、家事が得意なお父さんを中心にパパ会みたいなものを開いてもらう。お母さんはその日を休みにしてもらってお父さんが子供連れで集まって、その料理上手なお父さんに魚の捌き方や、チャーハンの作り方を学ぶといったような会を市が企画する。そういった事ができるようなお父さんを中心にやってくれば、横の繋がりもできると何かお父さん同士で困ったときの相談できますし、より家庭に参画するきっかけにもなるのかなとの話し合いになりました。

田中市長

答弁・質疑内容:

貧困・ジェンダー平等ということで二つの課題のテーマをいただきましてありがとうございます。まず学力格差なんですけど、学習支援の回数というのは、やはり今そこを大事なんですけど、義務教育の中で令和の改革ということで南砺市は教育改革ということをやっています。当然これは義務教育学校だとかっていうシステムを変えていくということもあるんですけど、ちょうど今のタイミングでタブレット全員に配りましたんで、いろんなやり方を今後考えられるということだと思いますし、先生方の時間をちゃんと生徒に向けての時間が取れるように、これ働き方改革といえば働き方改革なんですけど、先生がたが生徒に向き合う時間をちゃんと作れるっていうそういうことも含めて、今大きくチェンジしようとしていますので、当然たくさんいろんな格差に関しては、やっぱり学習支援だとか様々な、オンラインを繋いで使いながらいろんなことができるような時代になってきたということで、その辺りは少し皆さんに期待をしていただけるぐらいのことにまでやりたいなと思っています。

あと生理の話は、議会でも質問をいただきまして、すぐにどこにいくつというような具体的なことではなかったんですけど実は言うと、市は備品でもってます。これは災害の備品庫にたくさん備品として持っているんですね。こういうのをちゃんともう定期的に確認をして定期的に補充をしながら、そしてその中でちゃんと小中学校の女子トイレに配布できるようなことを考えていきたいと思いますということまで今合意ができたので、もしかして来年度あたりにはと思っています。これは災害用のものと子供たちをとということで分けて考えるんですけどそういうことも含めて考えています。あと、ちょっと私のジェンダーギャップの問題っていうのは、実は若い人たちの問題ではないと思っています。これはジェネレーションギャップでお年寄りの皆さんもしくはお年寄りというよりも今、社会をこうなんか牛耳ってるような私達の年代とか、それから上の方々の大考えを少しみんなが多様性を認めるということも含めて考えを変えていっていただけないだろうかというところで、地域作り協議会のとか、そういったところにも、今いろいろとお願いをしていますし、企業にもそういった話をしています。ですから皆さんも、例えば家庭に戻り、地域でいろんな年代の方が集まられるときに、そういう発信をしていただくことが、大きな力になるんじゃないかなというふうに思っています。

一つだけ紹介しますが、南砺市の男性の取得できる育休で、昨年6人ぐらい取ってくれました。一番長

い方で2ヶ月ぐらいお父さんが取ってくれたので、そういった意味では、本当にお母さんの産休を男性の方がどうサポートするかということも少しずつですが広がってきてるんじゃないかなというふうに思っています。後ですね、ジェンダー平等っていうのは言葉だけではなくて、やはり何度も申し上げますけど、それぞれが理解をしていただくということが大事なんで、これ本当に少し時間がかかるかもしれませんが、若い人たちの発信がちゃんと多くの方の心に広がっていく、浸透していくというふうに思っていますので、こういったところも含めて、これからも取り組んでいきたいなと思っています。

あと縦の繋がりへの横へのプラットフォームという言葉が非常によかったです。とにかく今、様々なプラットフォームが必要で、例えば子育てのコミュニティ、そして何ですかね、いろんなコミュニティが必要だということなんですが、特に子育てとかには、アプリを使って、子育てのお父さんお母さんからの悩みをすぐに相談できるような仕組みもできているんですが、そういうところをもう少し広げながら、いろんな人たちと同時にLINEのようにやり取りできるような、そういったものも大事なのかなというふうに感じました。またいろいろとこれからも今日だけではなくて、ずっとこのような課題を投げかけていただけるようなそういう関係性をぜひ皆さんと作っていききたいなと思っていますので、よろしく願いいたします

市長総評■

本当にたくさんアイデアをいただきましてありがとうございます。それぞれの立場いろいろあるかと存じますがけれども、いろんな意味でこれからも少し、南砺市の政策、南砺市のやっってることに興味をちょっと持っていて、まだまだ足りないとかですね、こんないいものがあるのになんで知らないのっていうことを、今日を機会に、いろいろと教えていただければ、そのことが一つ一つ前に進んでいくことになるというふうに思いますので、ぜひ皆さんにこれからもお願いをしたいなというふうに思います。

本当にいろんな方々にお集まりいただきました。いろんな意味で南砺市内でご活躍の方は間近にいらっしゃいますので、そういった直接お声をいただいてもいいですし、ネットでいろんな意味でハッシュタグをつけながら、とりあえず南砺未来にね、南砺未来というハッシュタグをつけていただければ、私達もそれを共有させていただくということになりますので、そういう実験も含めて、皆さん一緒にこれからも助言もしくはアイデア・アドバイスいただければなあというふうに思います。ハッシュタグ南砺未来(#nantomirai)で、今日から南砺に何かを言いたいことがあれば、お伝えいただければ、読み、読んでまたご返事が書ければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

閉会・解散■